

断夫山古墳について



▲断夫山古墳と周濠
(訪問は5月23日)

神宮公園内に断夫山古墳があるのをご存じでしょうか。

5月に初めて訪れたのですが、古墳の中に入ると知ってびっくり。管理事務所で許可をもらって、入ってみました。

中はけもの道が墳丘の上まで続いており、すべりそうになりながら登ってみましたが、手つかずの自然が残っていました。野鳥の鳴き声がして、とても癒しになる空間でした。



▲ここから入ります。入るときは管理事務所の許可をもらってください



▲墳丘の上部

断夫山古墳は愛知県内最大の前方後円墳で、全長151m、国の史跡に指定されています。ヤマトタケルと結婚の約束を交わしたミヤズヒメの墓と伝えられ、「夫を断つ＝断夫山」の呼び名となっていますが、現在はこの地方の豪族、尾張氏の墳墓と考えられています。

今回の報告にあたっては、8月12日に神宮公園管理事務所に伺い、お話を聞くことにしました。ご対応いただいたのは、所長さんと担当者さん。

管理事務所は指定管理者制度がとられており、職員数は8人。野球場やテニスコートなども含め、維持管理をしています。断夫山古墳は国の史跡であるために、伐採などはできず、けもの道に飛び出た草木を刈ることしかできないとのこと。希少生物はいませんが、10年ほど前にオオタカの幼鳥を保護したことがあり、また、多くの種類の陸貝が生息しているようです。



管理事務所 ▶



古墳自体の発掘調査は行われていませんが、令和元年度から、古墳のまわり（周濠）の試掘を行い、円筒埴輪の破片が出土しているそうです。ただ、ガイダンス施設がなく、所長さんもせっかくの史跡なのにもったいないを連発していました。

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された（元年7月）頃は、多くの方が訪れましたが、コロナ禍で昨年度の入山者数は1,080人ととどまっています。

観光客誘致の取り組みとして、御朱印ならぬ「御墳印」の発行を、志段味の白鳥塚古墳、犬山の青塚古墳とで昨年からはじめました（1枚300円）。これが全国展開すれば、コレクターも出現しそうです。

私も御墳印を頂きましたが、希望すればだんぷこちゃんの印も押してもらえます。

だんぷこちゃん、とても素朴な絵ですが、担当者さんが描いたのを当時の所長さんが気に入ってマスコットキャラクターにしたそうで、そのスタンプも職員の作った消しゴムスタンプだとか。

今年3月の古墳マルシェでは、子供たちに円筒埴輪作りを体験してもらおうと、職員全員で埴輪作りを練習したのですが、コロナで残念ながら中止。配付する予定だった手作りのグッズも眠っているそうですので、早く陽の目をみることができようになるといいですね。

職員のアイデアが活きる職場は、やりがいにもつながりますし、いきいきとした明るい職場、そんな印象を受けました。

◀御墳印とキーホルダー（非売品）

